

## PICK UP MOVIE



第74回カンヌ国際映画祭 グランプリ受賞作品  
本年度アカデミー賞 国際長編映画賞 最有力

## 英雄の証明

“英雄か、詐欺師か”

ソーシャルメディアの光と闇。  
「賞賛」と「疑惑」が交錯し、運命は翻弄されてゆく——  
社会に潜む歪んだ正義と不条理を、  
観る者すべてに突きつける衝撃の問題作

[2021年/イラン・フランス/ペルシア語/127分]  
監督・脚本・製作:アスガー・ファルハディ 出演:アミル・ジャディディ、  
モーセン・タナバンデ、サハル・ゴルデュースト、サリナ・ファルハディ

『別離』でベルリン国際映画祭3冠、『セールスマン』でカンヌ国際映画祭男優賞と脚本賞をW受賞。この2作でアカデミー賞外国語映画賞も制したアスガー・ファルハディ監督は、今や誰もが認める世界的な巨匠。最新作『英雄の証明』は、人間の倫理観を問うサスペンス劇。ファルハディ監督はそうした普遍的なテーマを追求するにあたって、今や世界中で絶大となったSNSやメディアの影響に注目。英雄として持ち上げられ、一方で詐欺師と呼ばれる主人公ラヒムの振れ幅の大きな運命を通して、真実というものの曖昧さや、社会に潜む欲望とエゴを現代的な切り口であぶり出す。

[上映日程] 4/30~ (休映:5/9~10)

with 『英雄の証明』



### 別離

[2011年/イラン/ペルシア語/  
123分] 製作・監督・脚本:  
アスガー・ファルハディ

はじめは、愛するものを守るための  
些細な“嘘”だった——

離婚の危機を迎えた夫婦を軸に、  
両親をつなぎとめようとする娘  
や、彼らの問題に巻き込まれてし  
まうもうひとつの家族の物語が絡  
み合い、複雑な人間心理を描き出  
していく。ベルリン映画祭史上初  
の3冠、第84回アカデミー賞で  
はイラン映画史上初の外国語映画  
賞を受賞した。

[上映日程] 4/23~29 (休映:4/25)  
[鑑賞料金] 一般 ¥1,500 / 映劇特  
別会員 ¥1,000 / その他通常通り

## 誰にも、譲れない「真実」がある

イランでは、軽犯罪で収監された場合は、休暇を取って刑務所から外出することができるのだという。主人公ラヒムが、休みの2日間を過ごすために鉄格子を通り抜けて向かった先は、2500年前のクセルクセス王の墳墓だ。切り立つ岩肌に掛けられた目くらむほど高い梯子を登ると、そこでは義兄が働いている。遺跡の修復工事だ。

この作品の舞台シラズは数々の古代遺跡に囲まれていて、人々はこの地に息づく歴史や文化を感じながら生活している。ラヒムは結婚の約束をしている女性に会いに行く。二人は喜びに胸を弾ませている。というのも彼女は、最近たまたま金貨の入ったバッグを拾ったのだ。それを売れば、ラヒムは借金を返済でき出獄できるかもしれないというわけだ。それなのにラヒムは、さほど深く考えたふうもなく金貨を落とし主に返そうと決めてしまう。ところが、その彼の善行がメディアやSNSによって波紋を引き起こし、周囲を巻き込んで大きな事件へと発展していく。

思えば、人は誰もがそれぞれに複雑な過去を背負い、さまざまな現実に向き合っている。内側に抱えている多様な感情や考えのどの部分が表に出るかは、本人にも分からない。ラヒムの何気ない小さな嘘や、ふと口を衝いて出たひとことが、事の成り行きを予想外の方向へと歪めていく。その渦中の人々のスリリングな心理の移り変わりを、この作品は驚くほど緻密に描きだしている。そしてとことん困難な状況に追い込まれたとき、ラヒムは思わぬ行動に出た。自分にとっての真実を守るためだ。

今回同時に上映されるイラン映画『別離』『白い牛のバラッド』にも共通するのは、誇りを保つために葛藤する人の姿、そしてそれを黙って見つめる子供たちの視線だ。自分の誇りを守るために、しがらみを断ち切り、損得を振り捨てる。孤立を恐れぬあの強さは、どこから生まれるのだろうか。イランとそこに暮らす人々に俄然興味を掻き立てられる。

tamura shizue  
田村志津枝

ノンフィクション作家。一方で大学時代から自主上映や映画制作などに関わってきた。1977年にファスピンダーやヴェンダースなどのニュー・ジャーマン・シネマを日本に初めて輸入、上映。1983年からホウシャオシエンやエドワード・ヤンなどの台湾ニューシネマ作品を日本に紹介し、その後の普及への道を開いた。